

---

# お嬢様とお手伝いさん ある朝の一時

仙人掌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お嬢様とお手伝いさん ある朝の一時

### 【Zコード】

Z5075D

### 【作者名】

仙人掌

### 【あらすじ】

茶髪のお嬢様と、その黒髪の毒舌なお手伝いさんのある朝の会話。

「朝です、起きてドヤー」

一秒も待たぬ間に金ダライが上から、  
ゴーン！

「痛ああああああああああ！」

屋敷にしては小さめの家の一部屋。少女の悲鳴が響き渡る

寝癖で頭がボサボサな茶髪の少女、彼女の名前は

「椿よ」

「お嬢様、起きて下さー」

「もう起きてるわよっ！顔面にタライが落ちれば起きるわっ！」

メイド服を着た黒髪のお手伝いさん、咲羅が返す。

「だつてお嬢様は、こうでもしないと起きないでしょう？」

「起きたわよーーー田さんと違つて朝に弱くはないわー！」

「親子だから遺伝してもいいと思いますが・・・」

「したまぬかへ、ゆれとせ廻のよーゆれとせーーー。」

「そうですね、椿お嬢様は料理が下手ですからね」

「…………それが主人に対するメイドの態度なの？」

「私はメイドではありません。あくまで【お手伝い】です」

お手伝いの態度でもないじゃない？ てかど、ちでもいいし！」

まあそうかもしねませんけど、ここは貴方にもぬずれません」

咲羅あ……それにこたね?」

卷之三

ノノ口腹なのは、母親のこがれに、である。

「いや、着替えるから」

八一

「九月八日」、大正二年九月八日

「なぜですか？」

「はずかしいからよー。」

「椿お嬢様のその平坦な胸にはほとんどの男性ですら興味がないと思いますが」

「悪かったわね！早くでてけつ――！」

バタシ

・・・・・ なんで急に素直になるのよ ・・・・・

「終わったわ、今日の朝食は何?」

「貴女の分などありません」

「嘘です」

「あ・・・・・ならいいけど・・・・・」

「それより、時間はいいんですか？」

「え？」

やつ言ひて時計を見ると・・・・・

「あああああああー! ほとんど時間ないじゃない!」

火事場のばか力(?)

超スピードで仕度を終わらせる

「こつてきまへつす!」

「そんなに急がなくていいんですよ、私が時計を早めにいただけですか!」

「は?」

認識のための一瞬のタイムロス。その間に逃げる咲羅。

「ふやけんなああああああああああああ!」

「などの少女の叫び屋敷中に響いた。

(後書き)

処女作です。  
感想、指摘などいただけたら私が狂喜乱舞します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5075d/>

お嬢様とお手伝いさん ある朝の一時

2010年10月24日06時01分発行